

第7回総合大会指定課題・解説一覧

総合大会は「ひらがな・かきかたコンクール」「全国学生書写書道展」「全国硬筆コンクール」とも指定課題だけです。学生展では席書・公募両部に共通の課題です。学生展公募の部では、同じ課題で用紙の大きさ（半紙、八ツ切、半切、地域指定用紙）が違えば1人3点まで応募できます。地域指定用紙とは、都道府県の大会などで独自に使用が求められている八ツ切のことです。この地域指定用紙での八ツ切出品も可能です。（その他実施要項ご参照）

「日本文化」を共通テーマに

文化には広い意味がありますが、この共通テーマでは衣・食・住のほか行事、言葉などを中心に指定課題を作成しました。平成32年（2020年）には、東京オリンピック、パラリンピックが開かれ、世界の関心が日本に注がれることでしょう。日本が世界から理解されるためには、私たち日本人が日本をよく知らなくてはなりません。課題の言葉をきっかけに、教室で先生と生徒さんの間で日本の文化について語り合われることを期待します。



この解説は主に指導者を対象に書かれています。課題の解説は一覧の末尾に記しました。参考にしてください。

用紙・表記上の注意

（イ）硬筆は書文協製作の「硬筆共通清書用紙」（検定、大会共通）で出品してください。共通清書用紙は学年ごとに①（5字1行、年長以下）、②（6字3行、小1・2）、③（7字5行、小3・4）、④（罫線5行、小5・6）、⑤（罫線6行、中学）⑥（白地、高校以上）の6種類があります。1枚10円。書文協本部にお求めください

（ロ）漢字は学習指導要領の学年別漢字配当に従い、総合大会は年度前半大会であることから前学年までの漢字使用を原則とします。ごく一部、当該学年配当の漢字が使われています。

（ハ）漢字・仮名遣い、句読点は原文通りでない場合があります。詩歌、漢文以外でも句読点を省く場合があります。

参考手本は4月末、評価の観点は5月末に発表

手本通りに書かなくてはいけないということではありません。また、流派を超えた審査が書文協の理念です。止め、はね、払いや点画など、身に付けなくてはいけないルール、技術をしっかりと手本から読み取ってください。指定された大きさの用紙に書く際の文字の配置、配列も手本を参考にしてください。技法、ルールのポイントを指定課題文言にそってまとめた「評価の観点」も、書文協ホームページ上で発表されますので、参考にしてください。

手本は書文協ホームページに掲載されます。ダウンロードし使用は自由です。発売される見本手本（毛筆はA3判、硬筆は共通清書用紙による原寸大）は希望者には5月上旬から発売します。手本は1枚当たり毛筆100円、硬筆は40円。幼稚園・保育園・学校単位での応募は、応募者1人につき手本と清書用紙2枚を無料とします。送料はご負担ください。

展示作品化奨励に表装（毛筆）、記念アルバム（硬筆）製作発売

書文協では書写書道作品の作品（展示）化を奨励しています。毛筆でも硬筆でも、人に鑑賞してもらうことが書の楽しみの一つとなります。また、展示作品化して残すことは、書の学びの軌跡となり、継続する力の原動力となるでしょう。

応募作品は基本的に書文協に帰属しますが、記念アルバム（本人の作品）写真、賞状のレプリカを配した特製）はアルバム立て台を付け、希望者に発売されます。表装、アルバムについての詳細は、結果発表時に同封されますが、書文協本部にお気軽にお問い合わせください。

— 課題 —

【平成30年度全国ひらがな・かきかたコンクール】

学年指定の硬筆共通清書用紙に鉛筆で書きます

学年	用紙	課題
年少年中	硬筆共通清書用紙①	こめ
年長	同①	せんす
小1	同②	おもてなし
小2	同②	まきずしが、とてもおいしい。
小3	同③	ゆかたをきて、まつりにでかけます。

【平成 30 年度全国学生書写書道展】

いずれも毛筆による縦書きです

学年	用紙	課題
年少年中	八ツ切	つ
年長	八ツ切	つる
小 1	八ツ切	いろり
小 2	八ツ切	おりがみ
小 3	八ツ切	米づくり
小 4	八ツ切	生け花
小 5	八ツ切	里山の秋
小 6	八ツ切	書字文化
中 1	八ツ切	春夏秋冬
中 2	八ツ切	枯山水の庭
中 3	八ツ切	正直で誠実
高校	半切	漢字 仮名 初心不可忘 春や昔 十五万石の 城下かな
大学	半切	漢字 仮名 山上有山路不通 柳陰多柳水西東 いにしへの 奈良の都の 八重桜 けふ九重に にほひぬるかな

【平成 30 年度全国硬筆コンクール】

学年指定の硬筆共通清書用紙に書きます

学年	用紙	課題
年少年中	硬筆共通清書用紙①	つきみ
年長	同①	もちつき
小 1	同②	おはぎをたくさんたべました。
小 2	同②	山のもみじが、とてもきれいです。
小 3	同③	しずかさや 岩にしみ入る せみの声
小 4	同③	新しき 本を買い来て 読む夜半の そのたのしさも 長くわすれぬ
小 5	同④	日本は手書き文字を大事にします。文字 で正しく、分かりやすく伝える書写、文 字の形に着目した書道。共に大切です。

小 6	同④	日本料理は季節感が豊かです。魚貝や野菜などの食材は多く出回る時が味も良く、その時期に使うことを大事にします。
中学生	同⑤	ひとり灯の下にて文をひろげて、見ぬ世の人を友とする、こよなう慰むわざなり。文は、文選のあわれなる巻々、白氏の文集、老子の言葉、南華の篇。
高校以上	同⑥	日本のアニメが世界で人気です。日本人の創造力の豊かさを示すもので、日本文化への興味が高まっています。今や日本を代表するカルチャーと言えるかもしれません。

— 解説 —

ひらがな・かきかたコンクール

◆**年少年中：こめ** 日本人の主食。それ以外にも、もち米はもちに、酒米は酒造りに使われる。

◆**年長：せんす（扇子）** あおいで風を起こす道具の一つ。儀式、芸能で用いられる。うちわは、世界の各地で文明発祥のころよりあったが、扇子の古い呼び名、扇（おおぎ）は日本で発明された。薄板を重ね、あるいは紙を折りたたむなどして作られる。

◆**小 1：おもてなし** 心を込めて接待すること。東京オリンピック・パラリンピックの開催を決めた 2013 年の国際オリンピック委員会（I O C）総会以来、日本文化を表すものとして、世界に知られる言葉となった。同年の新語・流行語大賞を受賞。

◆**小 2：まきずし** すし（寿司）は、米飯と魚貝類などを組み合わせた日本料理の定番。巻きずしは、寿司だねを芯にして海苔で巻いたすし。海苔 1 枚で巻いた太巻きと半分で巻いた細巻きがある。マグロをまいた鉄火（てっか）巻きは細巻き。

◆**小3：ゆかた** 浴衣（ゆかた）は日本古来の衣服である和服の一種。素肌の上に直接切る略装だが、お祭りの日には浴衣姿で出かける子どもたちも多い。



全国学生書写書道展

◆**年長：つる** つる（鶴）は昔から人々に親しまれてきた。たすけられた鶴が娘姿に化け、自分の羽で見事な布を織る「鶴の恩返し」は有名な昔話。越冬のため南下してくる渡り鳥で、鹿児島県の出水平野（いずみへいや）は飛来地で知られる。

◆**小1：いろり** 昔の日本の家にはどこにもあった。床を1メートル四方ほどに切り取り、その中に灰を敷き詰めて、その上で薪（まき）を燃やしたり、炭をおこし、調理、暖房に使った。洋風化で今ではすっかり姿を消したが、いろりの周囲は家族だんらんの場所にもなった。

◆**小2：おりがみ** 折り紙（おりがみ）は日本の伝統的な遊びの一つ。紙を折って、動植物や道具の形を作る。折り鶴をたくさんつないだ祈願のための千羽鶴は有名。千代紙と呼ばれる彩色豊かな和紙が使われることが多い。

◆**小3：米づくり** 主食の米をつくる稲作文化が日本文化の基底にあるが、アジアの広い地域で行われている稲作も、気候や地形など風土により違う。祭りなど伝統行事の多くは米づくりを中心とした農作業の関連で生まれた。

◆**小4：生け花** 花、葉、枝などを使って、生き生きとした飾りを作ること。日本発祥の芸術で華道（かどう）とも呼ばれ国際的に広がってきている。英語ではフラワーアレンジメントあるいはフラワーデザイン。多くの流派がある。

◆**小5：里山の秋** 里山（さとやま）は人の住む場所に近い山や森林を言う。山奥の深山の対義語。自然が豊かな日本では、緑豊かな里山は風景も食べ物も魅力いっぱい。特に実りの秋の里山は、収穫の祭りなど農山村の行事も多くある。

◆**小6：書字文化** 書字（しょじ）は文字通り、字を書くこと。歴史は文字で残り、文化の多くも文字によって伝承される。言霊（ことだま）という言葉に象徴されるように、言葉に精神性を見てきた日本人は、言葉を書くことを大事にしてきた。手で書くことで、書く人と文字が一体となり、個性的な文化が生まれる。また、手で書くことで文字は忘れられずに継承され、文化は発展していく。

◆**中1：春夏秋冬** 日本の季節は4分して春夏秋冬と呼ばれている。季節の移り変わりが多彩ではっきりしているのが特色。それは生活の多くの面に影響する。俳句などで季節を表す言葉、季語を集めた歳時記（さいじき）は日本の季節感を知る格好の本だ。

◆**中2：枯山水の庭** 水のない庭のことで、池や鑑水（やりみず）でなく、石や砂などにより山水の風景を表現する庭園様式。室町時代、禅宗の寺院で特に発達した。龍安時（京都市、臨済宗妙心寺派）の石庭などが知られる。



◆**中3：正直で誠実** 日本人の性格の特徴として、礼儀正しさなどと並んで正直で誠実な点が挙げられる。最近の大震災の混乱時でも、商店からの略奪行為が全く怒らないことが海外でニュースとして伝えられたほど。一方、正直で誠実な日本人は、交渉ごとに弱い人種と言われている。この日本人の特性は、生活の中から長い時間をかけて生み出されてきた。

◆**高校漢字：初心不可忘** 初心忘れるべからず。ものごとを始めた時の気持ちを忘れずに努力を続けよう、との意味。室町時代の猿楽師の世阿弥（ぜあみ）の書いた「花鏡」で、猿楽（現在の能）を続けていくうえでいましめるべき3つの「初心不可忘」を挙げている。

◆**高校仮名：俳句** 課題は近代俳句の祖と言われる明治時代の俳人・歌人、正岡子規の代表作の一つ。日清戦争の従軍記者として中国に旅立つ前に、故郷の松山（愛媛県）を詠んだ。

◆**大学漢字：日本人の漢文** 課題は明治の文豪、夏目漱石が書いた漢文の一部。山上に山有りて 路 通ぜず 柳陰に柳多くして 水 西東（山の向こうにまた山があって、その先は道が通じていない。柳の陰にはさらに柳が茂り、川が西へ東へ流れている）。漢詩・漢文は日本の知識人たちの素養の基だった。

◆**大学仮名：和歌** 100人の歌人の優れた和歌を一首ずつ集めた秀歌撰。なかでも、平安時代末期から鎌倉初期の歌人、藤原定家が選んだ小倉百人一首は歌がるたとしても有名。課題の和歌は伊勢大輔（いせのたいふ）作。いにしえ、は古く遠い時代の意味。

全国硬筆コンクール

◆**年小・年中：つきみ** 「雪月花」は、中国の詩人、白居易の漢詩で使われた言葉だが、日本の美しい自然を象徴する言葉でもある。月も、古くから観賞の対象とされてきた。「つきみ」は主に満月を眺めて楽しむことを指した。「名月や 池をめぐりて 夜もすがら」（芭蕉）などの文学作品も多い。

◆**年長：もちつき** 蒸したもち米を臼に入れ、杵で突き上げるのが古来からのもちつきのスタイル。もちは、正月などハレの日（非日常的な日）の行事には欠かせない縁起物の食材となっている。作りやすく、加工しやすいので多様な「つきもち食文化」を形成している。

◆**小1：おはぎ** お彼岸（7日間）の中日、春分の日・秋分の日が国民の祝日。日取りは暦象年表に基づき閣議で決める。平成30年の春は3月21日、秋は9月23日。秋のお彼岸は墓参りと、おはぎを食べるのが主行事。お彼岸は日本独特の風習である。

◆**小2：山のもみじ** モミジの木をさすだけでなく、落葉樹が秋に色づくことを紅葉・黄葉（もみじ）と呼ぶ。日本では、紅葉の季節になると紅葉を見物する行楽、紅葉狩り（もみじがり）に出かける人が多い。また、和歌をはじめ、様々な芸術の題材となってきた。

◆**小3：俳句** 俳聖と呼ばれる松尾芭蕉の代表作の一つ。山形市の立石寺で詠まれたもので奥の細道に収録されている。岩に染みとおっていきのような、静けさを一層際立たせる強い蝉の音が聞こえてくるような一句。



◆**小4：短歌** 三十一文字でつづる短歌（古くは和歌）は、日本の文学の大きな一領域。課題は石川啄木の処女歌集「一握の砂」から。書を読む楽しさも永く忘れていたな、という歌。自分の心を素朴に表現した啄木の短歌ファンは多い。同歌集の冒頭は「東海の小島の磯の白砂に我泣きぬれて蟹とたはむる」

◆**小5：手書き文字** 学生展の小6課題「書字文化」の解説にもあるように、文字が作り、伝える文化、その文字を手書きする文化は日本独特のものだ。IT万能の現代でも、この文化は引き継がれていかなければならない。

◆**小6：日本料理** 日本料理（和食）の一番の特色は、その時期に最も採れる食材を大事にすること。新鮮でおいしく食べられるからだ。値段も安くなることが多い。これを旬（しゅん）という。和食はいろいろな伝統行事と連動するなどの特色があり、2013年、世界文化遺産に登録された。

◆**中学：徒然草** 徒然草（つれづれぐさ）の作者は鎌倉時代の吉田兼好。清少納言の『枕草子』、鴨長明の『方丈記』と合わせて日本三大随筆の一つとされる。課題は第13段。文選（もんぜん）、白氏の文集（はくしのもんじゅう）、老子の言葉、南華の篇（なんかのへん）はいずれも中国の古い書物。

◆**高校以上：日本のアニメ** 人により国により違いはあるが古くは鉄腕アトム以来、海外でも人気のアニメは多い。製作年代に関わらず列举すると、ドラゴンボールや美少女戦士セーラームーン、ワンピース、クレヨンしんちゃんなど。ジブリ作品も見られている。最近では「君の名は。」が海外で高い評価を受けた。